

## ヨハネの手紙第一

### §4 3つの検証の統合(4:7-5:5)[その2]

#### 前回の復習

1. クリスマンは目に見えない神を信じており、目に見えない希望を持っている（ロマ 8:24；II コリ 4:18）。だからといって、何でも無批判に信じてしまうという「盲信」は避けるべきである。私たちは、霊的な洞察力を身につけなければならない。ポイントは、目新しい（センセーショナルな）教えを伝えている者が、「イエスは人となって来られたキリスト」だと信じているかどうかである。
2. 天地万物の創造主である神がこれほどの愛を示してくださったのだから、神の子であるクリスマンは互いに愛し合うべきである。
3. 兄弟愛を実践するときの愛ですら、私たち自身によるものではなく、内におられる聖霊からもたらされるものである。聖霊によって湧き上がる愛を実践するとき、神の愛は私たちの内で完全なものとなり、私たちはさらに神を深く知るようになる。

#### 前回の訂正

4:12 **いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。**

4:13 **神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられることがわかります。**

1. 「**いまだかつて、だれも神を見た者はありません。**」
  - (1) ヨハネは福音書 1:18 でも、「**いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである**」と述べていた。
  - (2) ここでは、ほとんど同じ言葉が使われている。
  - (3) 「**いまだかつて神を見た者はいない**」からこそ、御子イエスが世に遣わされ、私たちに神を説き明かしてくださった。
  - (4) 今は、私たちが互いに愛し合うことにより、神はご自身とその愛を示される。
2. 「**もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。**」

- (1) 「**全うされる**」という言葉（テテレイオウメン）は、「不完全な状態を克服する」あるいは「不完全な状態を〔完全な状態に〕置き換える」という意味である。
- (2) 私たちは、イエスが示されたように人を愛することはできなかった。しかし、今は聖霊の力により、そのような愛を実践していくことができるようになった。これが、「神の愛が私たちのうちに全うされる」ということの意味である。
- (3) 私たちの「愛せない」という状態は、聖霊によって克服されたのである。

3. 神は愛によってご自身を私たちに示される。

- (1) 私たちの愛は自分たちから出ているものではない。愛の実践によって神がご自身を示されるということは、私たちの内におられる御霊によるのである（4:13）。
- (2) 私たちが御霊に導かれる通りに愛を実践するとき、御霊は私たちに神ご自身とその愛を示される。
- (3) ローマ人への手紙 5:5

**この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。**

## § 4 3つの検証の統合(4:7-5:5)[その2]

### 2. 社会的検証と神学的検証の統合:信仰と愛の実践(4:14-21)

4:14 私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、今そのあかしをしています。

1. ヨハネは、これまでのテーマの中から以下の2つを合わせて教えていく。
  - (1) 私たちは互いに愛し合うことにより、救いの確信を得ることができる。
  - (2) 私たちはイエスを信じていることにより、救いの確信を得ることができる。
2. 救いの確信の土台は、御父が御子を世の救い主として遣わされたことである。
  - (1) 御子は世の救い主として、具体的には「なだめの供え物」として遣わされた(4:10)。
  - (2) 罪と墮落に満ちている「世」を救うためには、命を捧げ、血を流す必要がある。そのために、御子は人となって、私たちの間に住まわれた(ヨハ1:14)。ここに、神の愛が私たちに示された(4:9)。
3. ヨハネを含め、使徒たちは、「キリストの受肉」という神の愛が強烈に示された出来事を目撃した証人である。彼らの言葉には重みがある。

4:15 だれでも、イエスを神の御子と告白するなら、神はその人のうちにおられ、その人も神のうちになります。

1. イエスが神の御子であるという告白
  - (1) イエスは神を「父」と呼ばれた。ユダヤ文化では、神を「わたしたちの父」ではなく個人的な「(わたしの)父」と呼ぶことは、自分と神を等しくする表現であった(ヨハ5:18 参照)。
  - (2) イエスが「神の子」とであると告白することは、「ナザレのイエスという人は神ご自身である」と告白することである。
  - (3) イエスについてのこのような告白は、聖霊の働きによってのみ可能となる(4:2)。
  - (4) イエスが「神の子」と告白する私たちの内に神はおられ、私たちもまた神の内に留まっている。このことは、聖霊も私たちに示してくださる(4:13)。

4:16 私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神

のうちにおり、神もその人のうちにおられます。

1. 私たちは、イエス・キリストにあつて示された神の愛を知り、また信じている。
  - (1) 私たちは、キリストが私たちの罪のために人として遣わされたという神の愛を体験的に知り、信じた。
  - (2) 神の愛を受け入れ、イエスが神の子であると告白した。
2. 神は愛である。
  - (1) 私たちが信じている神は、愛されるに値しない罪人に愛を示すために御子を遣わされたほどの、完全な愛のご性質を持った方である。
  - (2) イエスは御父の命令を守ることで、御父の愛の中に留まっておられた。
  - (3) 私たちも神から生まれた者として、イエスのように愛を実践しようとしている。
  - (4) 「互いに愛し合いなさい」というイエスの命令を守るなら、私たちはイエスの愛に留まっている（ヨハ 15:9-10）。それによって、私たちは御父の愛の中にも留まる。
  - (5) 神に留まっている者の中には、神ご自身も留まっておられる。

4:17 このことによって、愛が私たちにおいても完全なものとなりました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるためです。なぜなら、私たちもこの世にあつてキリストと同じような者であるからです。

4:18 愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。

1. 完全なものとなった愛
  - (1) 私たちが神に留まり、神も私たちに留まることによって、私たちの愛は完全なものとなった。
  - (2) 愛が完全なものとなるとは、私たちがイエスのように愛することができるようになった、ということである。
2. 私たちの愛が完全なものとなった目的
  - (1) イエスが私たちのために戻ってこられるとき、「私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあつてした行為に応じて報いを受けることになる」（II コリ 5:10）。

- (2) 神の御心の通りに愛を実践できているならば、私たちは大胆に、確信を持って「キリストのさばきの座」に出て行くことができる。
- (3) 私たちは聖霊によって、キリストの似姿に変えられていく（ロマ12:2）。
- (4) 私たちはキリストの体の一部である。
- (5) 私たちは、「この世にあってキリストと同じような者」である。

### 3. 愛には恐れがありません

- (1) 1コリ13:4-7 **愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。**
- (2) ヨハネがこれまで教えてきた愛の性質も、パウロが伝えている愛の性質も、神の御心に適ったものである。
- (3) この愛を実践する者は、神に裁かれ、罰せられることへの恐れから解放される。
- (4) 私たちは既にキリストの血によって義と認められ、神の怒りから救われている（ロマ5:10）。クリスチャンとして成長し、愛を実践できるようになるにつれて、私たちの赦しの確信（救いの確信）は深まっていく。

### 4:19 **私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。**

#### 1. 私たちは「今」愛している。

- (1) 「私たちは愛しています」という言葉は、勧めではない。ギリシャ語を見ると、これは、クリスチャンの一般的性質である。
- (2) クリスチャンは今、愛を実践している。

#### 2. 愛の実践と御子への信仰による救いの確信

- (1) 神がまず御子イエスを遣わされることによって愛を示された。
- (2) 私たちの愛の実践は、神の愛の結果であり、その愛への応答である。
- (3) 御子イエスへのまことの信仰を持つ者は、神の愛に応答し、愛を実践するようになる。だから、私たちは信仰と愛の実践により、自分の救いを確信することができる。

4:20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。

4:21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。

1. 教えの適用

(1) 神の愛に応答して、私たちも神を愛しているなら、本来は兄弟姉妹を憎むことはできないはずである。

(2) もし目に見える兄弟を愛せないなら、神を愛せるはずがない。

2. 神への愛と兄弟への愛

(1) モーセの律法の中でも重要な教えは、神への愛と隣人愛である（マタ 22:37-40）。

(2) 神への愛は、その愛への応答として、人を神の戒めの実践へと導く。

(3) イエスは、「わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と命じられた。神を愛するなら、私たちを愛しておられる神の命令に喜んで従うことができるはずである。

3. 3つの検証の統合：信仰・従順・愛（5:1-5）

5:1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。

1. 御子への信仰と愛の実践

(1) 4:19 に続き、2つのテーマが統合されている。

(2) イエスこそ人として来られたキリストだと信じる者は、「皆、神によって生まれた者」である（新共同訳）。

(3) 同じ信仰により同じ神から新しく生まれた兄弟姉妹たちを愛することは、私たちにとって「自然」な状態である。

(4) 私たちが互いに愛し合うことの土台は、御子への信仰である。逆に言えば、兄弟姉妹が互いに愛し合うことは、御子への信仰を持っているという確信を深めてくれる。

5:2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。

5:3a 神を愛するとは、神の命令を守ることです。

1. 救いの道徳的検証と社会的検証の統合
  - (1) 道徳的検証：私たちは神の命令を守ることで救いの確信を得ることができる。
  - (2) 社会的検証：私たちは互いに愛し合うことで救いの確信を得ることができる。
  
2. 神を愛することと、神の命令を守ること
  - (1) 神へのまことの愛は、同じく神から生れた兄弟姉妹への愛を含んでいる。
  - (2) 兄弟姉妹を愛していることは、「私たちが神を愛してその命令（複数形）を守る」こと  
によって、体験的に知ることができる。
  - (3) 神の諸々の命令は、「わたしが愛したように、互いに愛し合いなさい」というイエスの  
新しい掟に集約されていく。
  - (4) 新しい掟を神の御心に沿って実践することができるなら、他の諸々の命令も実践する  
ことができるだろう。
  - (5) 逆に言えば、もし神の命令全般に従順であるならば、兄弟を愛することができている  
のは当然である。
  - (6) 命令への従順も、愛の実践も、神の愛に対する愛ゆえの応答である。私たちが神を愛  
するとは、神の命令を守ることである。

5:3b **その命令は重荷とはなりません。**

5:4 **なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。**

5:5 **世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。**

1. 御子への信仰・従順・愛の実践といったテーマが一体となっている。
  
2. 神の命令は重荷ではない
  - (1) 神の命令は、神の義の基準を示している。ノンクリスチャンにとっては異質な命令であり、実践しようとするれば重荷となる。
  - (2) クリスチャンにとっては、重荷とはならない。イエスが人であり神であるという信仰により、私たちは世に勝ち続ける。
  - (3) そして、この信仰自体が、既に世に打ち勝ったことの証拠である。

## 適用:その命令は重荷とはなりません

1. ヨハネが語ってきた愛
  - (1) ヨハネが教えてきた愛（アガパオー）の実践は、相手がどうであれ、決断／選択によって相手の望むことを行おうとすることである。
  - (2) 現実の中では、クリスチャン同士で互いに愛し合うことが困難な局面もある。
  - (3) ヨハネによれば、相手もまた神から生まれた者であるというだけで、愛するべきである。相手を愛することが困難だと感じるとき、私たちの中には世の価値観（罪人としての価値観）が働いている。
  - (4) しかし、聖書は、互いに愛し合うことが私たちにとって重荷ではないと保証している。
  
2. 保証1：私たちは既に世に打ち勝っているし、打ち勝ち続ける。
  - (1) イエスは悪魔の力を打ち砕かれ、世に打ち勝った方である。
  - (2) 私たちはこの方への信仰により新しく生まれ、この方を頭とする体の一部となった。世に打ち勝った方の一部となった私たちもまた、世に打ち勝ったのである。
  - (3) 世は私たちが神の命令を守り、愛を実践することを完全に妨げることはできない。
  
3. 保証2：新しい契約
  - (1) エレミヤやエゼキエルの時代から、信者には、聖霊により、神の掟を守る力が与えられることが教えられていた。

エレ 31:33b わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

エゼ 36:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行わせる。
  - (2) これは「新しい契約」の一部である。そして、イエスは最後の晩餐の席で「新しい契約」を結ばれた（ルカ 22:20）。
  - (3) 今、クリスチャンは「新しい契約に仕える者」である（II コリ 3:6）。
  - (4) 「新しい契約」の祝福に与っている私たちには、聖霊による神の掟を守る力が与えられているはずである。
  
4. 結論：神の御言葉全体に信頼を置くことにより、ヨハネの言葉は説得力を増す。相手を愛することに困難を感じたら、「その命令は重荷とはなりません」というヨハネの宣言を思い出そうではないか。